

# 大垣市障がい者福祉に関する アンケート調査

調査報告書 概要版

令和2年2月

大垣市

## 調査の概要

### 調査目的

本調査は、障害者基本法及び障害者総合支援法に基づき、本市における障がい者の状況等を踏まえた障害者計画、障害福祉計画等の策定に関する基礎資料とするため、市内の障がい者等を対象とするアンケート調査を実施しました。

### 調査設計

調査対象	障がい者	難病患者	障がい児	発達障がい児	一般
対象者数	1,800 人	200 人	100 人	100 人	1,000 人
抽出方法	・障がい者及び難病患者、障がい児、発達障がい児については、障害者手帳、特定医療費(指定難病)受給者証、スマイルブック所持者等から無作為抽出 ・一般については、住民基本台帳から無作為抽出				
調査時期	令和元年10月1日(火)～10月25日(金)				
調査方法	郵送による送付・回収				

### 回収結果

	障がい者	難病患者	障がい児	発達障がい児	一般
配布数	1,800 件	200 件	100 件	100 件	1,000 件
回収数	1,074 件	112 件	49 件	48 件	445 件
有効	1,026 件	111 件	49 件	47 件	439 件
無効	48 件	1 件	0 件	1 件	6 件
有効回収率	57.0%	55.5%	49.0%	47.0%	43.9%

### 報告書の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのためパーセントの合計が100%にならないこともあります。
- (2) 回答率(%)は、その質問の回答者数を母数として算出しました。
- (3) 基数となるべき実数(n)は、設問ごとの回答者数として掲載しました。比率は、この回答者数を100%として算出しています。
- (4) 複数回答が可能な質問では、比率算出の基数は回答者数とし、その項目を選び○印をつけた人が全体からみて何%なのかという見方をしました。そのため、各項目の比率の合計は通常100%を超える場合もあります。
- (5) 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。

# 1 地域生活

## 調査結果のポイント

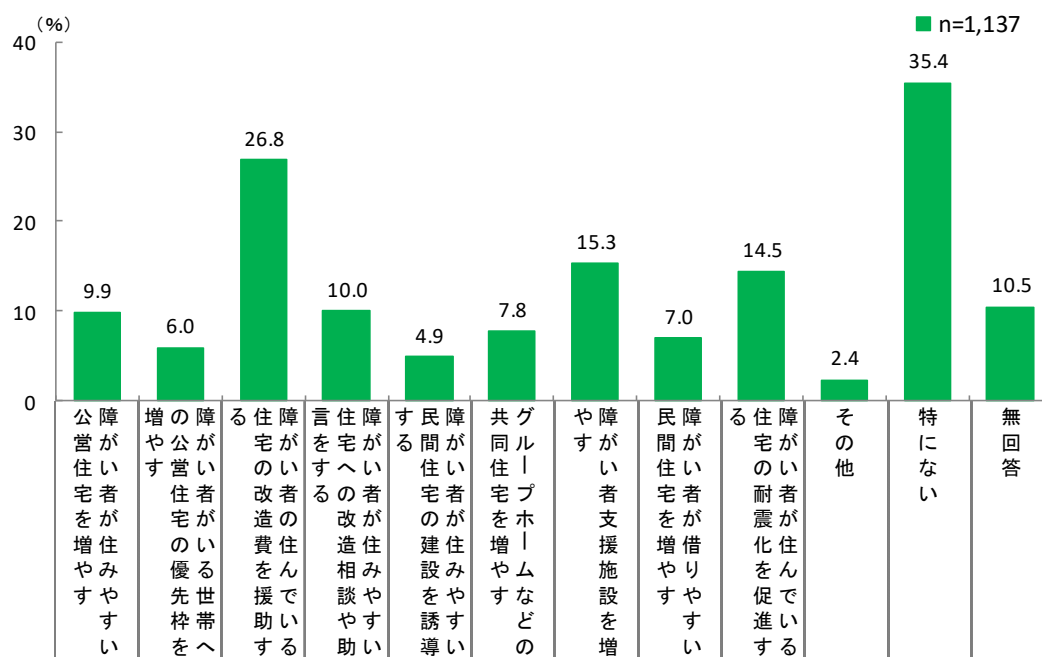
- ✓ 地域生活について、障がい者全体では8割以上が現在住んでいる「自宅」で生活を送りたいという意向が強く、「住宅改造費の援助」や「住宅の耐震化」が課題となります。また、知的障がい者等障がいによっては障がい者支援施設やグループホームのニーズが高く、「施設等のニーズにどう対応していくか」が課題となります。
- ✓ 地域でのグループホームの設置について、一般の回答結果を見ると約6割の人が“賛成”していますが、「今までどおり施設で」という意見や「わからない」と回答した人は、障がい者が地域の中で円滑に生活ができるか不安を感じている人もおり、今後、「障がい者に対する地域の理解を高めること」が重要となります。
- ✓ 今回、地域生活支援のニーズを詳しく把握するため新たに設問を設定しました。障がい者が地域で生活するために、どのような支援が必要か尋ねたところ、「在宅での在宅サービスや医療ケア」、「緊急時の施設での受け入れ体制」のニーズが高く、「平常時、緊急時にかかわらず福祉・医療の支援の充実」が必要となります。

### 【障がい者】

問 15 あなたがお住まいについて、主に望むことは何ですか。（主なもの3つ以内に○印を記入）

住まいについて望むことについては、「特にない」が35.4%と最も多く、次いで「障がい者の住んでいる住宅の改造費を援助する」が26.8%、「障がい者支援施設を増やす」が15.3%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「特にない」は難病患者、「障がい者支援施設を増やす」は重複障がい者・知的障がい者・精神障がい者で全体より高い割合となっています。知的障がい者・精神障がい者では「障がいの住んでいる住宅の改造費を援助する」が全体より低い割合となっている一方、「グループホームなどの共同住宅を増やす」は全体より高い割合となっています。

## <障がい別>

		問15 あなたがお住まいについて、主に望むことは何ですか (%)					
	調査数	障がい者が住みやすい公営住宅を増やす	障がい者がいる世帯への公営住宅の優先枠を増やす	障がい者の住んでいる住宅の改造費を援助する	障がい者が住みやすい住宅への改造相談や助言をする	障がい者が住みやすい民間住宅の建設を誘導する	グループホームなどの共同住宅を増やす
全 体	1,137	9.9	6.0	26.8	10.0	4.9	7.8
身体障がい者	749	8.8	4.8	29.6	11.2	5.1	3.1
知的障がい者	96	10.4	11.5	16.7	6.3	1.0	29.2
精神障がい者	116	17.2	8.6	18.1	4.3	6.9	16.4
難病患者	67	10.4	7.5	28.4	6.0	7.5	3.0
重複障がい者	81	7.4	4.9	29.6	16.0	3.7	14.8
	調査数	障がい者支援施設を増やす	障がい者が借りやすい民間住宅を増やす	障がい者が住んでいる住宅の耐震化を促進する	その他	特にない	無回答
全 体	1,137	15.3	7.0	14.5	2.4	35.4	10.5
身体障がい者	749	10.7	5.5	17.0	2.1	36.6	10.8
知的障がい者	96	27.1	12.5	5.2	1.0	28.1	14.6
精神障がい者	116	26.7	14.7	6.0	4.3	33.6	7.8
難病患者	67	10.4	4.5	9.0	3.0	43.3	7.5
重複障がい者	81	27.2	8.6	18.5	1.2	28.4	7.4

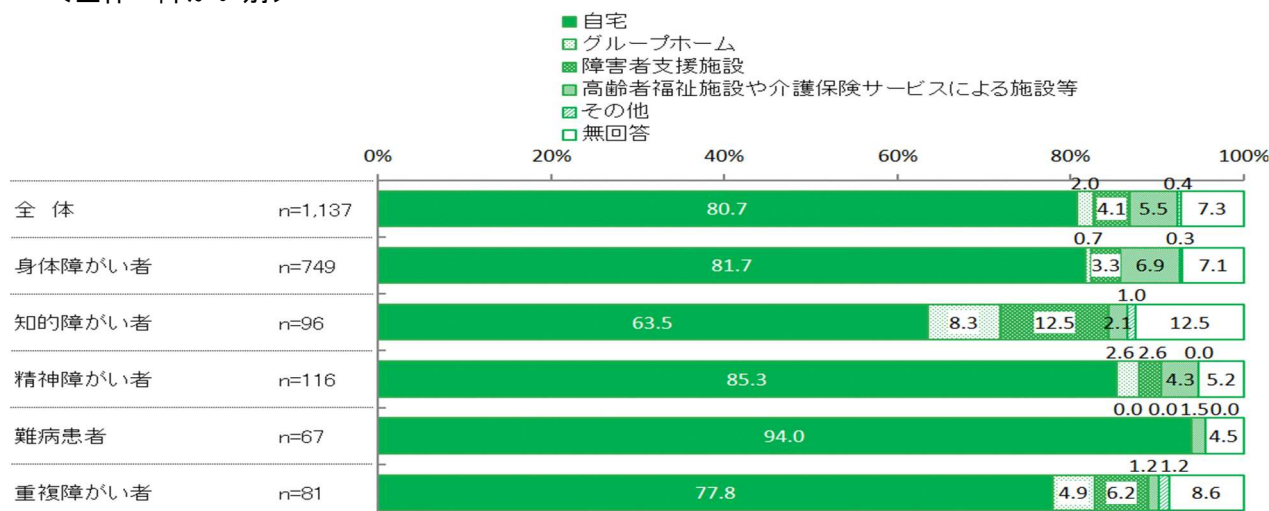
## 【障がい者】

問 16 あなたは、これからの生活をどこで送りたいですか。(あてはまるもの1つに○印を記入)

これからの生活をどこで送りたいかについては、「自宅」が80.7%と最も多く、次いで「高齢者福祉施設や介護保険サービスによる施設等」が5.5%、「障害者支援施設」が4.1%の順となっています。

障がい別にみると、「グループホーム」「障害者支援施設」は知的障がい者で全体より高い割合となっています。

## <全体・障がい別>



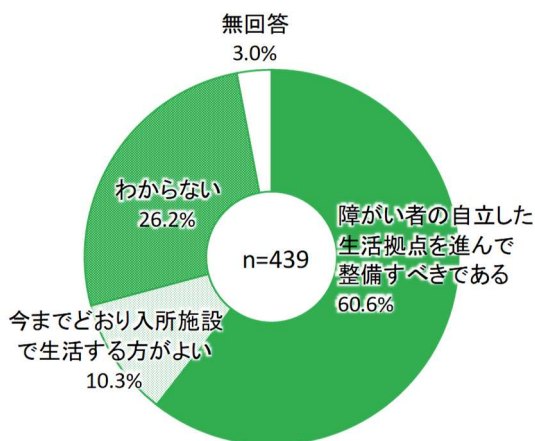
【一般】

問 17 地域に障がい者の自立した生活拠点となるグループホームなどの障がい者（児）支援施設を設置することについて、あなたはどのように思いますか。（あてはまるもの 1 つに○印を記入）

地域に障がい者の自立した生活拠点となる障がい者（児）支援施設を設置することについては、「障がい者の自立した生活拠点を進んで整備すべきである」が 60.6%と最も多く、次いで「わからない」が 26.2%、「今までどおり入所施設で生活する方がよい」が 10.3%となっています。

年齢別にみると、「障がい者の自立した生活拠点を進んで整備すべきである」は 30～39 歳で最も割合が高くなっています。

<全体>



<年齢別>

	調査数	(上段：人、下段：%)			
		障害者の自立した生活拠点を進んで整備すべきである	わからない	今までどおり入所施設で生活する方がよい	無回答
全 体	439	266 100.0	45 10.3	115 26.2	13 3.0
20～29歳	38	24 100.0	5 13.2	9 23.7	0 0.0
30～39歳	59	40 100.0	4 6.8	15 25.4	0 0.0
40～49歳	71	46 100.0	9 12.7	15 21.1	1 1.4
50～59歳	81	54 100.0	3 3.7	23 28.4	1 1.2
60～69歳	91	51 100.0	10 11.0	25 27.5	5 5.5
70歳以上	97	50 100.0	13 13.4	28 28.9	6 6.2

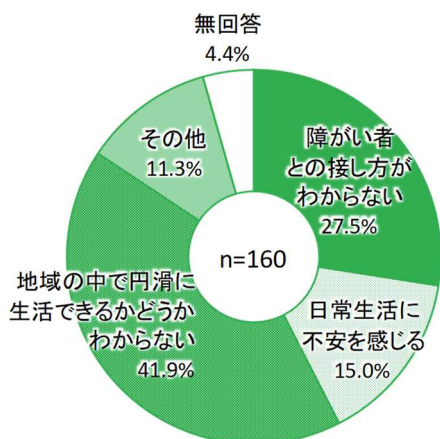
【一般】

問 17-① 問 17 で「2. 今までどおり入所施設で生活する方がよい」「3. わからない」と答えた方におたずねします。その最も大きな理由は何ですか。（あてはまるもの 1 つに○印を記入）

その理由については、「地域の中で円滑に生活できるかどうかわからない」が 41.9%と最も多く、次いで「障がい者との接し方がわからない」が 27.5%、「日常生活に不安を感じる」が 15.0%の順となっています。

年齢別にみると、「地域の中で円滑に生活できるかどうかわからない」は 20～29 歳で最も割合が高くなっています。

<全体>



<年齢別>

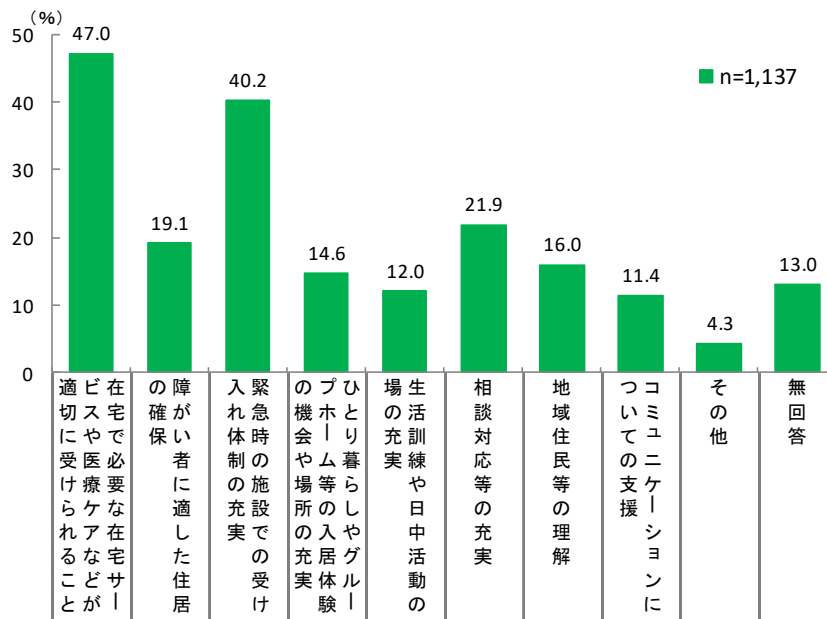
	調査数	(上段：人、下段：%)				
		障がい者との接し方がわからない	日常生活に不安を感じる	地域の中で円滑に生活できるかどうかわからない	その他	無回答
全 体	160	44 100.0	24 15.0	67 41.9	18 11.3	7 4.4
20～29歳	14	3 100.0	1 7.1	8 57.1	1 7.1	1 7.1
30～39歳	19	7 100.0	1 5.3	7 36.8	3 15.8	1 5.3
40～49歳	24	5 100.0	3 12.5	13 54.2	3 12.5	0 0.0
50～59歳	26	4 100.0	3 11.5	14 53.8	5 19.2	0 0.0
60～69歳	35	9 100.0	8 22.9	13 37.1	4 11.4	1 2.9
70歳以上	41	16 100.0	8 19.5	12 29.3	1 2.4	4 9.8

【障がい者】

問 19 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○印を記入)

地域で生活するために必要な支援については、「在宅で必要な在宅サービスや医療ケアなどが適切に受けられること」が47.0%と最も多く、次いで「緊急時の施設での受け入れ体制の充実」が40.2%、「相談対応等の充実」が21.9%の順となっています。

<全体>



障がい別にみると、「在宅で必要な在宅サービスや医療ケアなどが適切に受けられること」「緊急時の施設での受け入れ体制の充実」は難病患者・重複障がい者、「相談対応等の充実」は精神障がい者・知的障がい者・重複障がい者で全体より高い割合となっています。

<障がい別>

	調査数	問19 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか				
		在宅で必要な在宅サービスや医療ケアなどが適切に受けられること	障がい者に適した住居の確保	緊急時の施設での受け入れ体制の充実	ひとり暮らしやグループホーム等の入居体験の機会や場所の充実	生活訓練や日中活動の場の充実
全 体	1,137	47.0	19.1	40.2	14.6	12.0
身体障がい者	749	49.1	19.2	40.5	11.5	8.3
知的障がい者	96	30.2	20.8	39.6	29.2	26.0
精神障がい者	116	32.8	25.9	30.2	27.6	22.4
難病患者	67	62.7	13.4	44.8	4.5	10.4
重複障がい者	81	55.6	14.8	46.9	18.5	21.0
	調査数	相談対応等の充実	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援	その他	無回答
全 体	1,137	21.9	16.0	11.4	4.3	13.0
身体障がい者	749	16.0	12.8	8.5	4.1	14.3
知的障がい者	96	41.7	25.0	22.9	3.1	14.6
精神障がい者	116	44.0	30.2	23.3	4.3	8.6
難病患者	67	17.9	14.9	6.0	3.0	4.5
重複障がい者	81	29.6	18.5	16.0	4.9	9.9



## 2 就労

### 調査結果のポイント

- ✓ 障がい者の就労を促進するための必要な支援について、「障がい者に対する事業主や職場の仲間の理解と協力」が障がい者、一般ともに最も多く、就労するにあたって障がい者への理解が最も重要であることがわかりました。
- ✓ 障がい者への理解に続いて、障がい者・一般ともに、「障がいの特性や程度にあった仕事の提供」、「障がい者に配慮した職場の施設・設備」、「総合的な相談支援」等のニーズが高くなっています。

### 【障がい者】

問 24 あなたは障がい者の方の就労を促進するために、主にどのような支援が最も必要であると思いますか。(主なもの3つ以内に○印を記入)

障がい者の就労促進のために必要な支援については、「障がい者に対する事業主や職場の仲間の理解と協力があること」が31.0%と最も多く、次いで「障がいの特性や程度にあった仕事が提供されること」が24.4%、「障がい者に配慮した職場の施設・設備が整っていること」が22.4%の順となっています。

<全体>

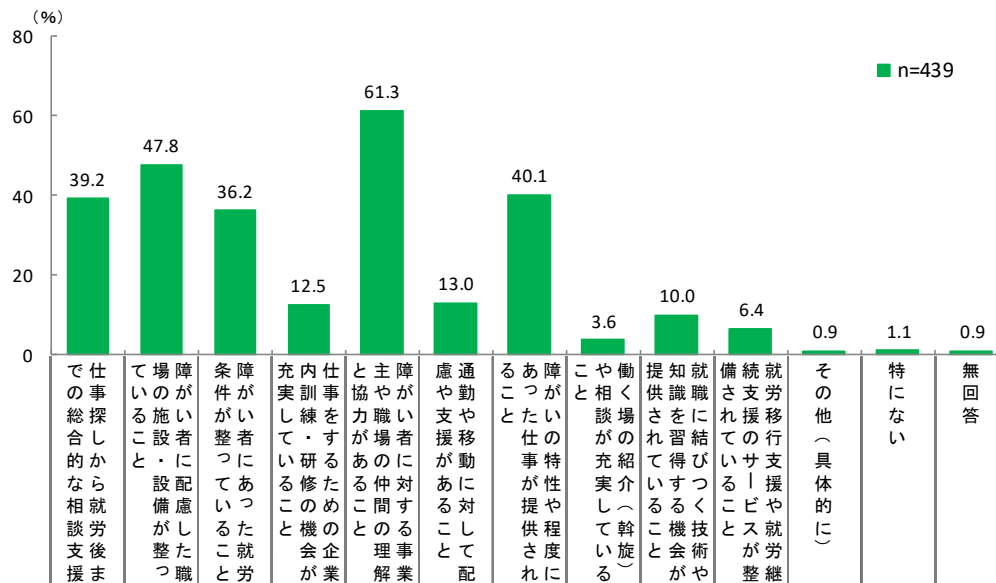


【一般】

問 10 あなたは障がいのある方の就労を促進するために、主にどのような支援が必要であると思いますか。（主なもの3つ以内に○印を記入）

障がい者の就労促進のために必要な支援については、「障がい者に対する事業主や職場の仲間の理解と協力があること」が61.3%と最も多く、次いで「障がい者に配慮した職場の施設・設備が整っていること」47.8%、「障がいの特性や程度にあった仕事を提供されること」40.1%の順となっています。

<全体>





### 3 学校

#### 調査結果のポイント

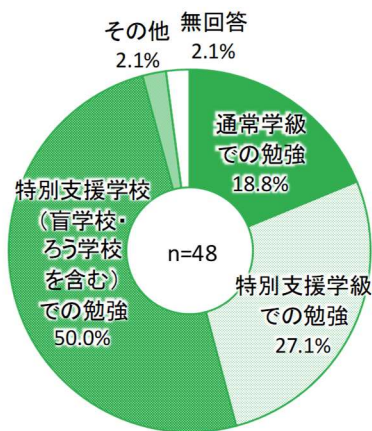
- ✓ 学校で勉強する形として、障がい児は、「特別支援学校での勉強」、発達障がい児は、「通常学級での勉強」がそれぞれ多くなっています。
- ✓ このように障がいの状況等を踏まえて、適切な勉強の場の提供が求められています。

#### 【障がい児：問 18-④、発達障がい児：問 13-④】

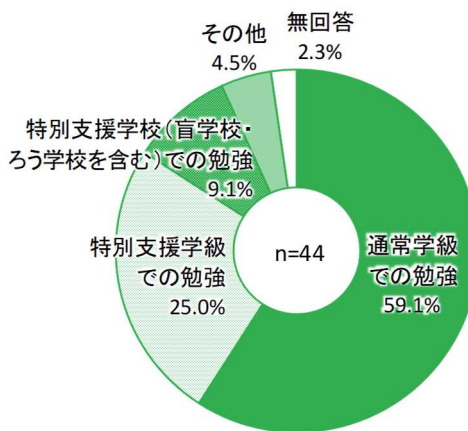
学校で勉強する場合に、どの形を望みますか。（あてはまるもの 1 つに○印を記入）

学校の勉強の形については、障がい児では「特別支援学校（盲学校・ろう学校を含む）での勉強」が 50.0%と最も多く、次いで「特別支援学級での勉強」が 27.1%、「通常学級での勉強」が 18.8%の順、発達障がい児では、「通常学級での勉強」が 59.1%と最も多く、次いで「特別支援学級での勉強」が 25.0%、「特別支援学校（盲学校・ろう学校を含む）での勉強」が 9.1%の順となっています。

<障がい児>



<発達障がい児>



## 4 災害

### 調査結果のポイント

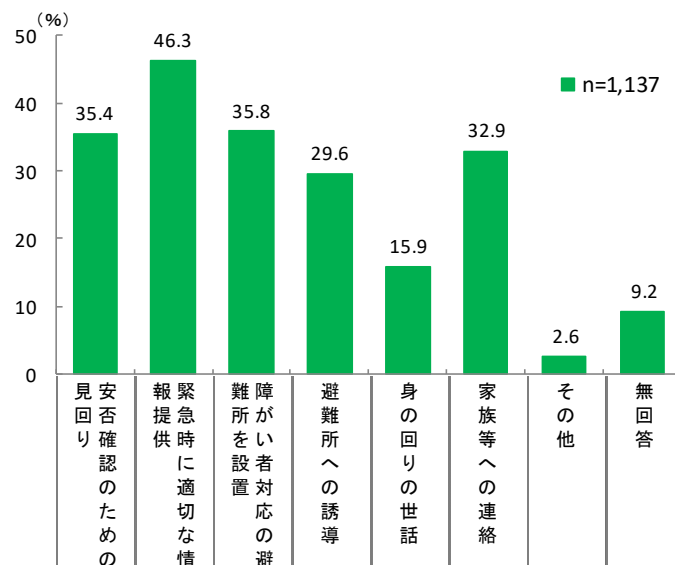
- ✓ 災害時に大垣市（行政）にしてほしいこととして、「緊急時の情報提供」が最も多く、以下「安否確認の見回り」、「障がい者対応の避難所の設置」などがあります。
- ✓ 災害時の困りごととして、「安全なところまで避難できない」が最も多くなっています。
- ✓ 一般市民の回答で災害時に障がい者に対してどのような支援や協力ができるかを尋ねたところ、「安否確認・声をかける」、「安全な場所への避難誘導」が多くなっており、一般市民の協力を得ながら、災害時の支援体制の検討を進めていくことも考えられます。

### 【障がい者】

問 30 災害などの緊急事態が発生した場合に、障がい者（ご本人）のために、保護者・家族の方は大垣市（行政）に最もしてほしいことは何ですか。（主なもの3つ以内に○印を記入）

災害などの緊急時に保護者・家族が大垣市（行政）にしてほしいことについては、「緊急時に適切な情報提供」が46.3%と最も多く、次いで「障がい者対応の避難所を設置」が35.8%、「安否確認のための見回り」が35.4%の順となっています。

<全体>

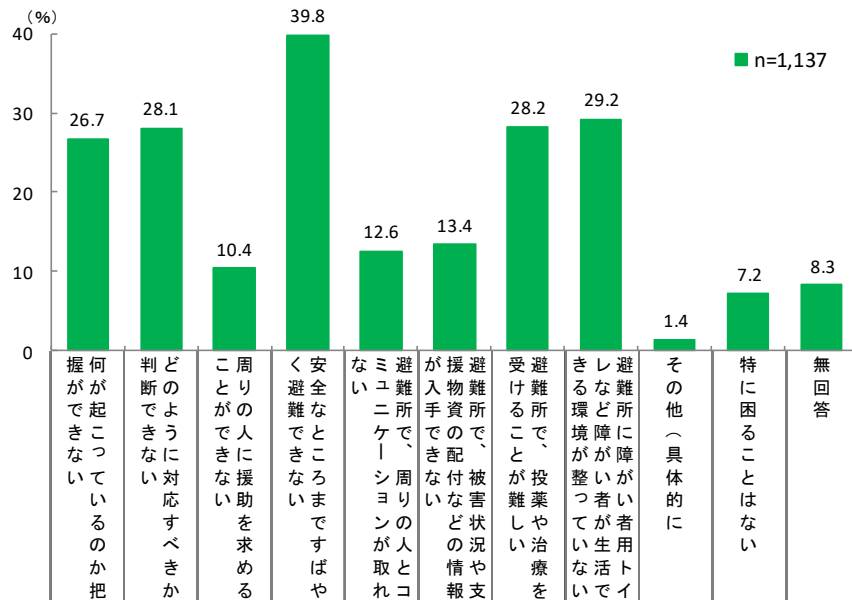


【障がい者】

問 31 あなたは、災害などの緊急事態が発生した場合に、どのようなことに困ると思いますか。  
(主なもの3つ以内に○印を記入)

災害などの緊急時に困ることについては、「安全なところまですばやく避難できない」が39.8%と最も多く、次いで「避難所に障がい者用トイレなど障がい者が生活できる環境が整っていない」が29.2%、「避難所で、投薬や治療を受けることが難しい」が28.2%の順となっています。

<全体>

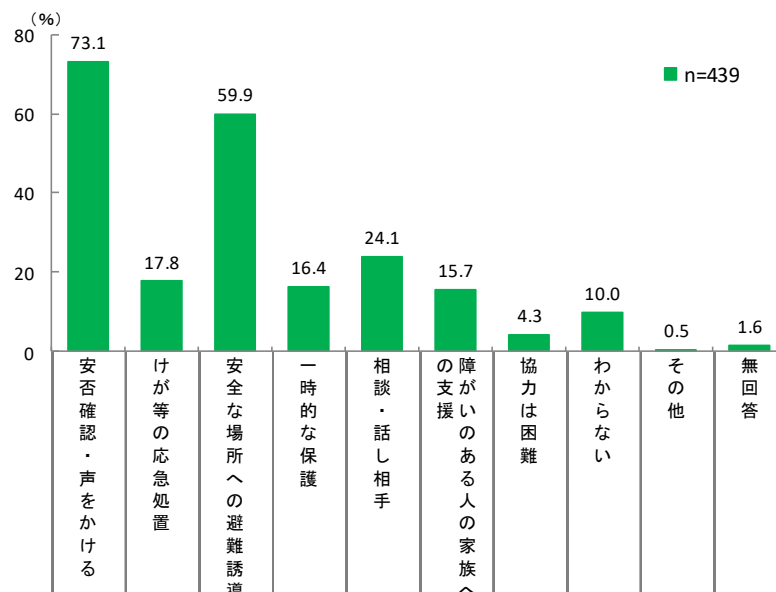


【一般】

問 6 災害時にあなたは、障がいのある人のためにどのような支援や協力ができると思いますか。  
(あてはまるものすべてに○印を記入)

災害時に障がい者のためにできる支援や協力については、「安否確認・声をかける」が73.1%と最も多く、次いで「安全な場所への避難誘導」が59.9%、「相談・話し相手」が24.1%の順となっています。

<全体>



## 5 大垣市の施策への要望

### 調査結果のポイント

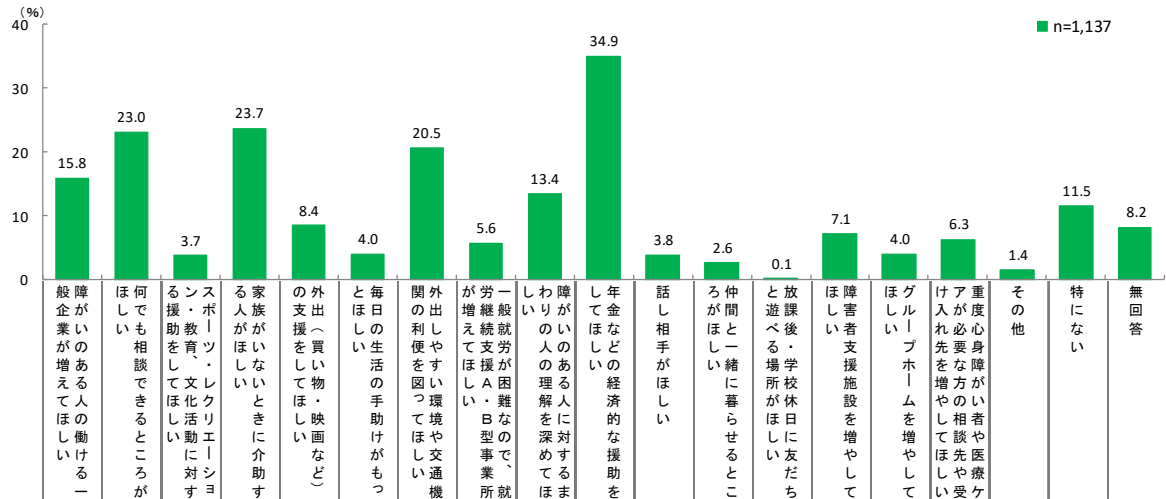
- ✓ 大垣市の施策への要望について、障がい者は、「年金などの経済的な援助」が最も多く、以下「家族がいないときの介助者」、「何でも相談できる場所」が多くなっています。
- ✓ 障がい児は、「障がいのある人の働ける一般企業が増加」が最も多く、「就労継続支援 A・B 型事業所の増加」、「障がいのある人に対するまわりの人の理解」となっています。
- ✓ 発達障がい児は、障がい児と同様に「障がいのある人の働ける一般企業が増加」が最も多く、「何でも相談できるところがほしい」、「障がいのある人に対するまわりの人の理解」が多くなっています。
- ✓ これらの要望は、大垣市のみでは、実現できるものではなく、大垣市民、地域の支援者、一般企業、障害福祉サービス事業者等の連携・協力が必要となります。
- ✓ 大垣市の取り組みのうち、特に重要な項目（「重要である」の割合が大きい項目）として、障がい者では、「障がい者の生活支援の充実」、「障がい者の保健・医療の充実」、「緊急時の相談、対応の充実」、障がい児では、「療育・教育環境」、「雇用・就業」、「生活支援」、「生活環境」、発達障がい児では、「療育・教育環境」、「雇用・就業」、「保健・医療」となっています。
- ✓ 一方、一般の人が考える障がい者に関わる重要な取り組みは、「障がい者が暮らしやすい生活環境の整備」、「障がい者の雇用・就業」、「障がい者の生活支援」となっています。

【障がい者：問 36、障がい児：問 30、発達障がい児：問 21】

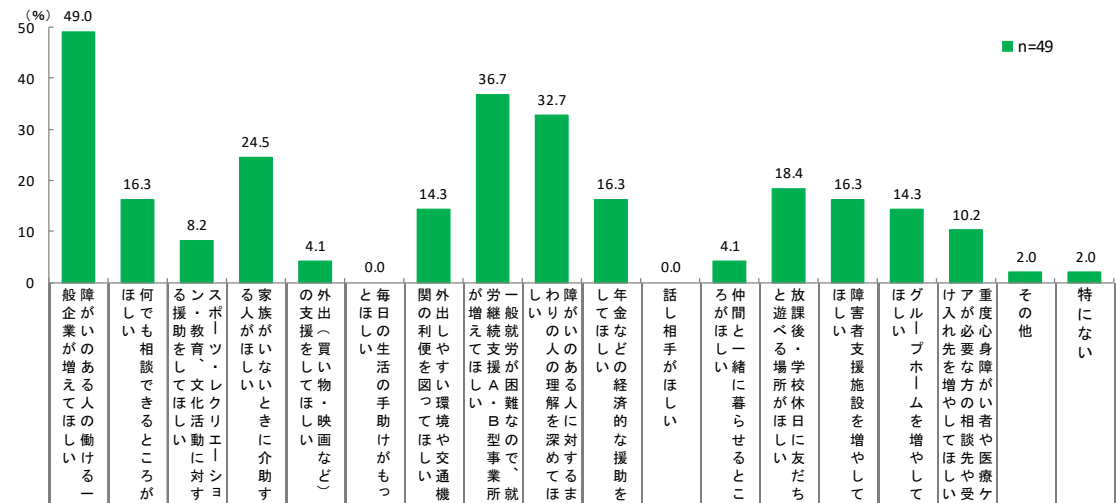
あなたが、これから生活するうえで、主な要望は何ですか。（主なもの3つ以内に○印を記入）

これから生活するうえでの要望については、障がい者では「年金などの経済的な援助をしてほしい」が34.9%、障がい児・発達障がい児では「障がいのある人の働ける一般企業が増えてほしい」がそれぞれ49.0%・36.2%で最も多くなっています。

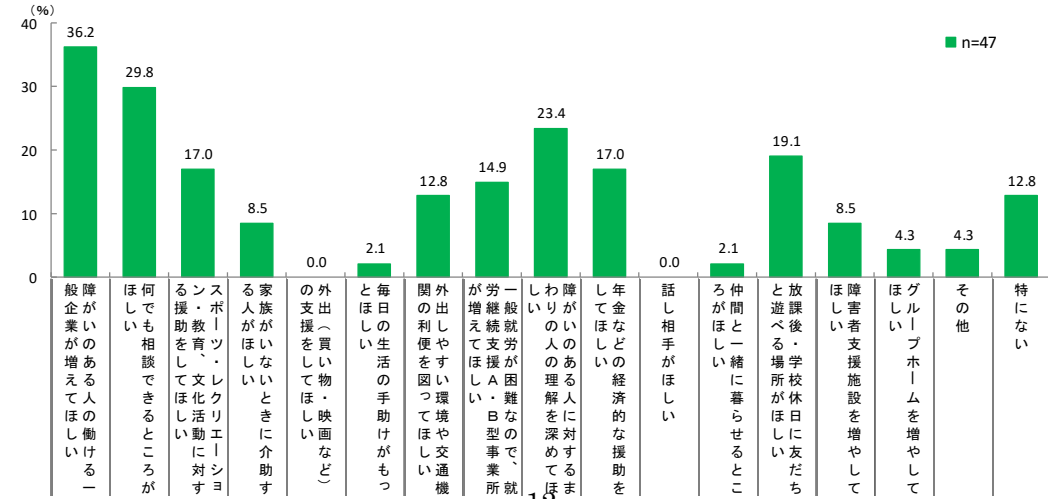
<障がい者>



<障がい児>



<発達障がい児>

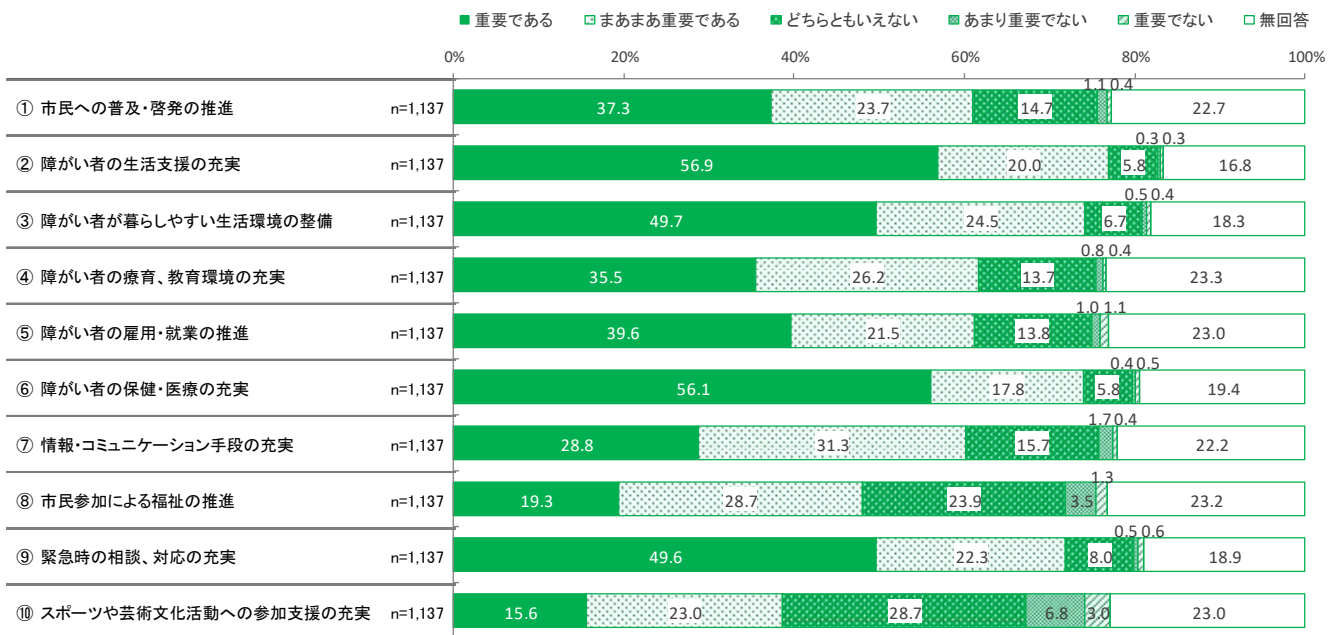


【障がい者：問 41、障がい児：問 31、発達障がい児：問 22、一般：問 19】

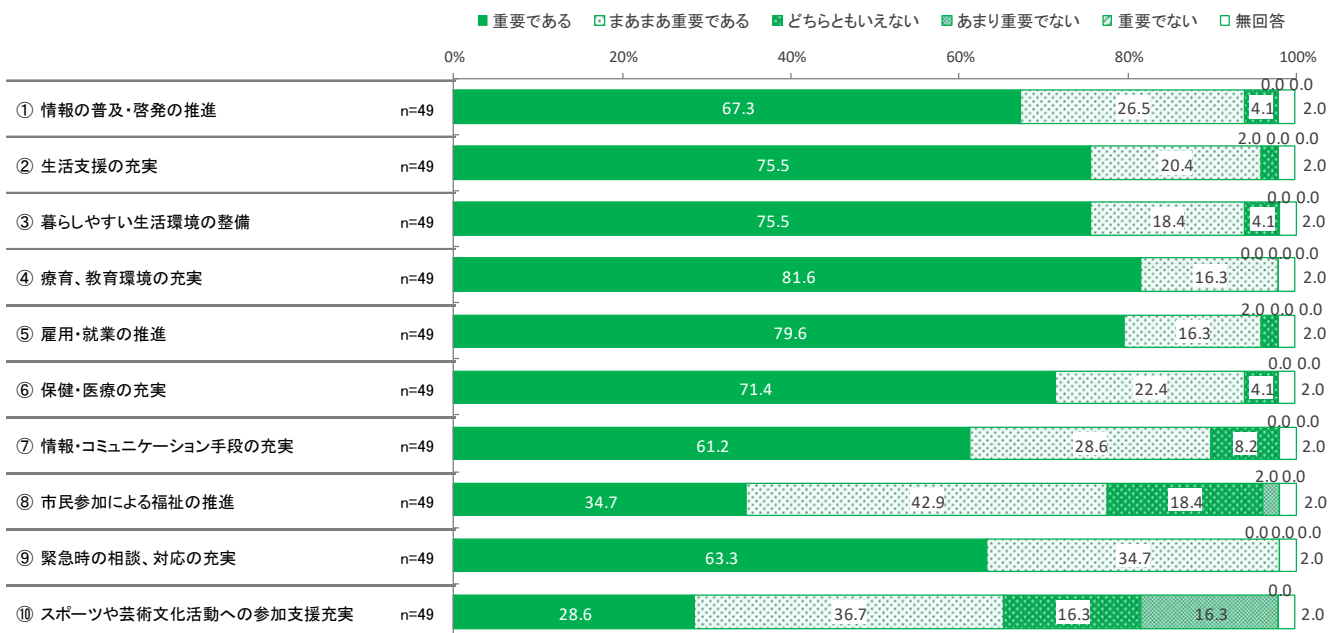
あなたはこれからの大垣市の取り組みとして、次の各項目について、どのくらい重要だと思いますか。（それぞれあてはまるもの1つに○印を記入）

これからの大垣市の取り組みの重要度について、「重要である」の割合が最も多いのは、障がい者では「②障がい者の生活支援の充実」が56.9%、障がい児・発達障がい児では「④療育、教育環境の充実」がそれぞれ81.6%・74.5%、一般では「③障がい者が暮らしやすい生活環境の整備」が52.4%で最も多くなっています。

<障がい者>

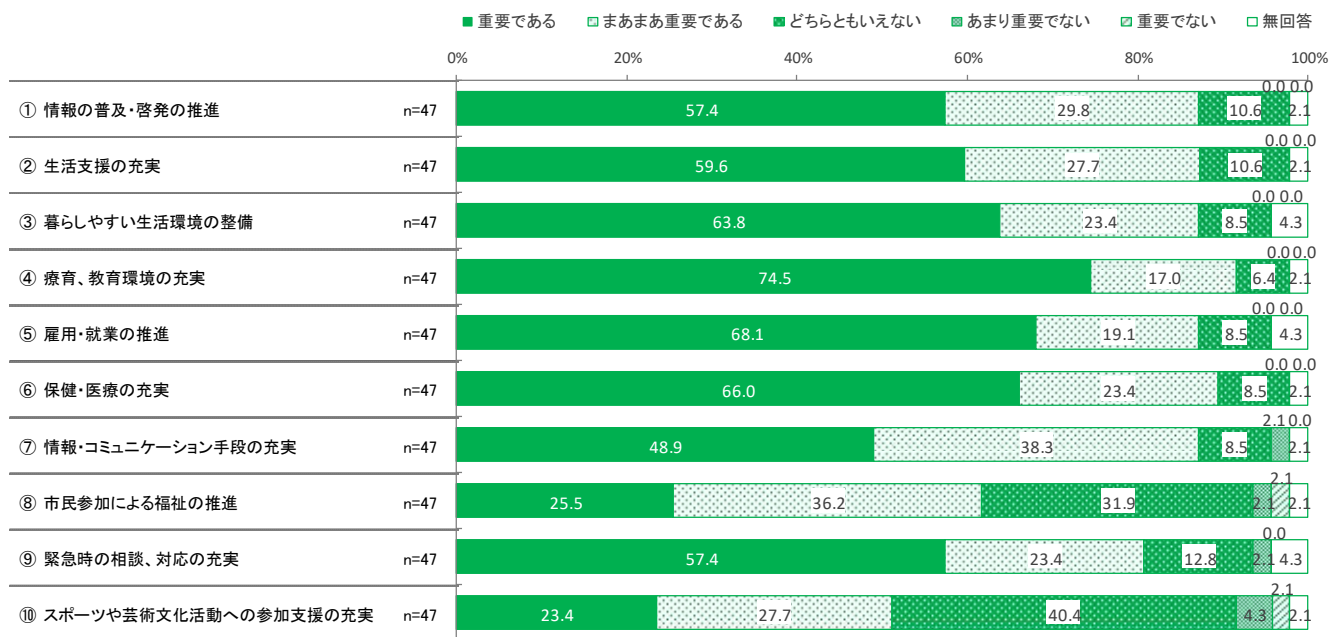


<障がい児>





## <発達障がい児>



## <一般>

